## ああ青春の歓喜を (大正十五年寮歌

木村左京君

作歌

草を茵の旅枕 しばしこの舎に憩ひして 我が行く方の遠ければ ああ青春の歓喜を の酔ひと言ふは誰れ

明日の旅路を夢に見んぁヶ たびぢ ぬめ み

世は永劫に常闇 の光見えざれば

曠野に萠ゆる若草の

我等の群に加はらん 類迷の徒も起き出でて 撓まぬ旅は 麗 我が清純の魂の しく か

うららかに照る春の日は で はる ひ そよ吹く風に寄するとき しらべゆかしき 喜 びを

の奥にまどろみて

光の波は野に充てり

ただ野は広く路遠し 故郷の空は見えねども

光の雲を如何に見る 歩みつづくる行人は 彼方の国に孜々として 行手の空に湧き出づる
ᄤᄉ

Ŧ.

友も歌へば我も和しとも、うた あは れゆかしき人の世や

光まばゆき自治の燈 来るはここぞ森の奥

牧野千代治君 作曲